

第2回協議会での「女性活躍総合戦略（素案）」に対する指摘事項 対応表

No	発言者	指摘箇所	指摘内容	町回答 (委員長/委員コメント)	対応：修正案
1	秋田谷委員	当計画策定に至った経緯	平成25年には1万人を人口達成目標にしていますが、あまりにも目標が低すぎるのではないかと。	(町) 25年後の国の試算は7000人になっており、まちの総合戦略の審議会で最終的に1万人とした。昔は13000人という人口がいたが、全体の試算がそれだけ今は危機的な状況にあるということである。	「松田町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略」に合わせているため、記載内容はそのままとします。
2	秋田谷委員	重点目標	松田町には子どもを育てられる素晴らしい環境があるので、子育て支援を中心とした政策を掲げ、もっと簡素化して、ひとつの目標に向かって進んでいかないとあまりにも目標が多すぎるのではないかと。	(町) 基本目標、重点目標等は、アンケートなどを色々やった中で、最終的にこういう形で取りまとめている。大きく簡素化すべきという課題はあるが、それぞれの中では、色々な項目として出てきている部分は押さえていると思う。各目標等について、視点としてずれていないか、違う点、足りない点などをご意見いただきたい。	アンケート調査や統計データ等を踏まえ、女性が輝き活躍するまちをつくるために必要と思われる内容を、職場環境、子育て環境、住環境、PR戦略の4分野で網羅的に記載しているため、そのままとします。
3	関委員	町の現状と課題	アンケートの男女別の退職理由のところ、結婚出産の為や、家事や育児に専念する理由が一番多いとされていたが、そこはあくまでも自主的な希望が多いのかなと思う。家事や育児との両立が困難であるための39名、ここの課題を解決することが必要である。なぜ両立が困難だと思ったのか、企業に両立するための制度がなかったのか、企業が女性が活躍しなくて良いスタンスだったのか。企業が女性に対し、どの程度まで求めているのかで大きく変わって来ると思うため、女性の働きたい意欲だけでなく、企業が女性に活躍してほしいとの思いが、合致しないとなかなか難しいのではないかと。	(委員長) えるぼしマーク等の調査結果をみると、あまり取組をする気のない事業所が多い。風潮として、女性が活躍しなくて良いという事業所では長く勤めようと思えなくなり、自主的に結婚退職することもある。認定企業を優先的に取り上げるなど、様々な施策があると思う。色々な取組み方で、企業の意識改革が必要である。	P12 図の説明 「家事や育児との両立が困難であるため」との回答が、女性39名に対し、男性2名であった旨、追加します。 1-①-7 プラン名、プラン内容の追加 「(新規)女性活躍の取組推進の支援」を追加します。
4	鈴木委員	町の現状と課題	松田町を知らない方がいたり、ここで働きたいと思える何かは今はないのではと思う。松田町は、外から移り住んでどこかに働きに行くという環境がまだ整っていないのではないかと印象を受けた。帰りに買い物をして帰りたいが、そのような場所がないという話も多く聞く。まずはイメージの改善や、移り住んで働きたいと思える環境づくりに力を入れていく必要があるのではないかと。	—	重点目標4：住みたい・住み続けたい・戻ってきたいと思えるまちの「②まちの魅力の発信」の事業や関連する事業を通じてPR発信を行います。
5	小谷副委員長	町の優位性と課題	利用可能な土地に限られるというところは、そうではないとの意見も出てきていたので。活用方法が課題であるという認識がある	—	P4 町の土地利用状況では、山林が78.2%を占めており、住宅用地や商業用地などとしての利用可能な土地に限られるという点は事実ですが、利用可能な土地が残されている実態があるので、「限られた利用可能な土地を、効率的で効果的に活用していくことが求められます。」と追加します

第2回協議会での「女性活躍総合戦略（素案）」に対する指摘事項 対応表

No	発言者	指摘箇所	指摘内容	町回答 (委員長/委員コメント)	対応：修正案
6	青木委員	事業メニュー	延長保育事業を松田さくら保育園がやっていると思うが、午後7時以降に預かってほしいという方もいるため、その辺が今後どうなるのか。	—	午後7時以降の保育ニーズが高い場合は、法人との運営方法の変更を協議するほか、他の夜間保育を実施している園を紹介していきます。戦略の記載は、そのままとします。
7	青木委員	事業メニュー	延長保育事業について、卒園した母親から、保育園は朝7時から見てくれるが、小学校は朝の時間に学童保育がないため、子どもたちを家に残して出勤するのが怖いという意見をよく聞く。	—	朝の時間帯における学童保育支援員による保育は、短時間の勤務であることから、人材確保が困難であり、事業運営も難しいことから、今回はそのままとします。
8	青木委員	事業メニュー	通常保育事業は、来年度から保育園120人に定員を増やすが、現在すでに142人おり、卒園児が20名のみであるため、4月から定員越えという状況でスタートする。31年度の状況によって、小規模保育を設置すると記載があるが、これを早めにやっていく必要があるのではないか。	—	未就学児童の保育等の受け皿確保について、計画的に実施していきます。戦略の記載は、そのままとします。
9	青木委員	事業メニュー	特定保育事業は、午前または午後だけの利用とのことだが、仮に、保育園で午後だけの利用となると、お昼寝のタイミングで来園することになり、うまく生活をそろえていけるのか懸念される。	—	保育園での事業実施を検討する際には、法人と運営手法を協議していきます。戦略の記載は、そのままとします。
10	青木委員	事業メニュー	保育園ではなく、家で育てられる支援も始められるといいのではないか。	(鍵和田委員) 小学生や幼稚園のお子さんを家に置いていかなければならない世帯に対しては、子育て支援センターのサポートがある。事前に予約した方に対し、サポートの方が朝早くにお宅に伺い、子どもの支度や学校まで送り届ける支援がある。このようなサービスもPRすれば、各世帯が利用でき、安心して子育てができるのではないか。	—
11	青木委員	事業メニュー	重点目標2の「③自然や地域の資源を活かした子育ての推進」はどんどんやって欲しい。特に、もう少し町中心部に公園が増えれば、子どもたちがみんなで遊ぶことができる。子どもの館の上の所ではなく、下にもあると嬉しい。	—	公園について、2-③-1プラン内容に追加 「・子ども達を含む幅広い年代が楽しめる公園を整備するとともに、自然を活かした遊具や取組を検討・推進します。」
12	鍵和田委員	町の現状と課題	松田町は他市町村と比べ、子育て支援に力が入っているため、松田町が独自で実施している取組や、松田町で育てると子どもがのびのび・すくすく育つことをアピールする必要がある。	—	重点目標4：住みたい・住み続けたい・戻ってきたいと思えるまちの「②まちの魅力の発信」の事業や関連する事業を通じてPR発信を行います。

第2回協議会での「女性活躍総合戦略（素案）」に対する指摘事項 対応表

No	発言者	指摘箇所	指摘内容	町回答 (委員長/委員コメント)	対応：修正案
13	鍵和田委員	—	松田町は山がほとんどであり、住宅用の土地の確保が難しい。空家はあるが、アパート型の物件が多い。空き地になっている場所は、若い方が家を建てて新規で住んでいるケースがとても多い。	—	—
14	鍵和田委員	事業メニュー	2-①-10「女性が輝き活躍する機会をサポート」のプラン内容は、2-①-3「ファミリー・サポート・センター事業」と分けて書かれているが、同じ内容であれば一緒に記載した方が分かりやすい。	—	2-①-10「女性が輝き活躍する機会をサポート」は事業メニューから除外しました。
15	足立委員	事業メニュー	重点目標2「地域一体となって自然の中でのびのび子育てできるまち」の項目の下に、「子育て・介護支援サービスや関連制度・施設の充実」とあるが、主要施策や事業メニューに介護支援サービスに関する内容が書かれていない。	(委員長) 事業メニューには介護について記載がないが、取組としては色々されているとだろう。 第1回協議会にて、女性の活躍の中に介護も必要という意見も出ていたため、收拾がつかなくなってしまうという意見もあったが、介護についてを入れるか話し合うことも必要だろう。再度検討いただく。	女性活躍を支える介護事業として、以下の事業を追加します。 ・介護家族支援事業 ・高齢者生活支援等サービスの充実
16	足立委員	事業メニュー	2-①-16「幼小中PTA家庭教育学級の開催」とあるが、PTAが企画・運営を工夫しても、保護者が参加しないことが多い状況である。 子育て支援ではあるが、実施しているのはPTA役員であるため、当戦略に記載するのはいかがか。	(委員長) 子育て環境として、親が必要な部分であろうかと思えますけれど、場所ですとか、時間ですとか、企画など、色々やりやすい形にできても良いのかもかもしれません。これは町のプランか。 (町) 当戦略は、町役場が実施する事業だけでなく、色々な主体が実施している取組も掲載したい。PTA役員の苦労は理解できるが、地域での保護者のコミュニケーションも非常に大事な部分であるため、うまく連携していただければと思う。	当戦略は、実施主体を町役場に限らないため、PTA役員が関わられる取組も、記載したままとします。
17	杉山委員	—	重点目標2「地域一体となって自然の中でのびのび子育てできるまち」の一事例として、松田幼稚園も寄幼稚園も、園の近くの畑を町民の方が貸出してくれ、園児が自ら育てた野菜を食べている取組がある。本当に地域の方々から見守られている状況である。	—	2-③-3 プラン名、プラン内容の追加 「近隣の畑を使った食育の実施」を追加します。
18	杉山委員	事業メニュー	町の子育て支援サービスは大変充実しているが、これを父親が把握できていないケースが多いのではないかと。 各家庭によって色々な形態があるため一概には言えないが、母親と子の教室だけでなく、父親と子が参加する取組もあると良いのではないかと。	—	2-①-16 プラン名、プラン内容の追加 「母親・父親教室の開催」を追加します。

第2回協議会での「女性活躍総合戦略（素案）」に対する指摘事項 対応表

No	発言者	指摘箇所	指摘内容	町回答 (委員長/委員コメント)	対応：修正案
19	杉山 委員	町の優位性と 課題	P26(現在P33)の「人口当たりの保育所や幼稚園、小中学校が多い」点については、保育園は定員超えの状況にもかかわらず、幼稚園は受入れ可能な状況で園児数も次第に減少している。 人口当たりに対する状況というよりも、現状に即した形にするためには、どうしたら良いかが課題である。		P33 内容の追加 子育て行政の優位性「人口当たりの保育所や幼稚園、小中学校が多い」ことはデータ上では言えることであるため、そのままとし、課題の欄に「幼稚園は、定員に対して余裕があるが、保育所は定員超過が見込まれる」を追加します。 2-①-10プラン内容の修正（庁内照会結果） 「・ 町内の保育所の定員を平成30年度から10人増員し、120人とします。 ・ 平成30年度から、小規模保育の設置等の保育の受け皿確保の方法を検討します。」を追加します。
20	北村 委員	—	松田町は、子どもの下校の際に、「これから下校します」という放送が入る。この放送によって、町の子どもに対する見守り意識が高まるため、非常に良い取組であると思う。	—	3-①-4 プラン内容の追加 「防犯の意識づくり ・ 子どもたちの下校時に放送を流し、地域の方の見守り意識を高めます。」を追加します。
21	北村 委員	重点目標	重点目標3「～女性活躍のための基盤が整ったまち」に関し、女性が活躍するには、それなりの支援が必要である。例えば、町が企画する講演会に託児がない、或いは、静かにしていただける子のみ同伴可能といったケースも見られる。そのような所から少しずつ考えを変えた方が良い。	—	2-①-23 プラン名、プラン内容の追加 「(新規) 託児サービスの充実」を追加します。
22	北村 委員	町の現状と課 題	松田町には公園が多くあり、自然が豊かだが、遊具が足りないのか、あまり長い時間遊べない。子どもが飽きてしまう。自然がたくさんあるのに、もったいない。 最近は秦野のカルチャーパークというところが新しくなり、遊べる遊具があり、幅広い年齢層の子どもが楽しめ、駐車場も広い。	—	2-③-1 にプラン内容の追加 No.11とまとめて対応 「・ 子ども達を含む幅広い年代が楽しめる公園を整備するとともに、自然を活かした遊具や取組を検討・推進します。」を追加します。
23	吉崎 委員	事業メニユー	重点目標3「コンパクトで安心安全、女性活躍のための基盤が整ったまち」の「女性活躍のための基盤」として、啓蒙が一番大事であると思う。 例えば、自治会役員に占める女性の割合が少ないことなどからも、女性が遠慮しているように感じられる。まずは、女性が出やすい雰囲気づくりが大事かと思う。	—	1-④-2 「(新規) 町内女性リーダーの育成」の事業を通じて、女性活躍に向けた啓蒙を行います。

第2回協議会での「女性活躍総合戦略（素案）」に対する指摘事項 対応表

No	発言者	指摘箇所	指摘内容	町回答 (委員長/委員コメント)	対応：修正案
24	吉崎委員	事業メニュー	3-①-15及び3-①-16にある「ふれあい相談員」は、現在、成り手が無い状況である。 各取組をふれあい相談員が実施するというよりも、ふれあい相談員をサポートする人が必要である。 現在は、ふれあい相談員に何でも依頼してやってもらう風潮があるため、もう少し、みんなでやろうとなれば良いのではないか。	—	貴重な意見として、今後の参考とさせていただきます。
25	吉崎委員	事業メニュー	3-①-16「地域の茶の間活動の推進」は、どちらかという高齢者向けの施策だが、子育て中のお母さんと高齢者が気軽に触れ合える茶の間づくりになれば良い。 現在は、子育てと高齢者福祉が二極化しており、一緒の企画は、なかなかうまくいかないもので、今後の課題である。	—	貴重な意見として、今後の参考とさせていただきます。
26	吉崎委員	事業メニュー	3-③-6「女性が集い、憩い、美しくなる場の創出」は、プラン名が他のプラン名と比べると疑問が残る。 また、2-①-10の旧松田土木事務所での取組と同じであれば、合体させても良いのではないか。	(町) 3-③-6は、旧松田土木事務所の改修に関するプロジェクトの一つであり、国に対して提出した計画書に記載した内容であり、今後実施される新規の事業である。 計画は国に認められているが、現在、別途、町と役員が検討を進めており、紆余曲折が予想される。	子育て関連の整備については、重点目標2で言及し、女性のための住環境については重点目標3に言及しています。 地域再生計画に記載されていた旧土木事務所関連事業は、地域再生計画の見直し案が国に認められた場合、その内容を踏まえて見直しをかけることとします。 旧松田土木事務所での取組は、3-③-6に集約します。
27	吉崎委員	事業メニュー	3-③-7「(新規)子育て世帯への空き家の紹介」について、現在、松田町には空き家が沢山あるが、若い方々が自由にリノベーションできるようにし、アーティストの移住を促すような方法も、一つである。 寄には空き家が沢山あるが、相続が済んでいないケースや、親の荷物があるケースなどで、すぐに入居できる空き家が整備されていない。町には、空き家バンクがあるが、追い付いていない状況であるため、すぐ入居可能な空き家の整備を進めてほしい。	(委員長) 公共が手を出しにくいところではあるが、うまくマッチングできれば良い。	当該事業は、空き家実態調査事業の中で実施することとなったため、新規事業からは除外します。 今後事業実施にあたって、当該意見を参考とさせていただきます。
28	太田委員	事業メニュー	重点目標3”女性活躍の基盤が整ったまちづくり”というのは、なかなか難しい。 町内に女性の就労先を確保することよりも、交通利便性を活かし、町内外で働く女性が、帰りに駅前で購入物をして帰ることができる環境づくりが重要である。駅前の空き店舗を活用しながら、買い物する場が増えれば、通勤しながらも生活する利便性が高まる。 駅前開発のプランと整合を図りながらプラン作成を進めてほしい。	—	1-③-4「(新規)新規事業者の誘致」や、3-②-1「新松田駅前等の基盤整備事業にともなう商店街の活性化について検討」の事業を通じて、駅周辺部の買い物環境を整備します。 交通利便性については、P3「交通利便性の状況」に、都心(新宿)だけでなく神奈川県内の人口規模の大きい市町村へのアクセス、町外への通勤・通学先の状況について追記します。

第2回協議会での「女性活躍総合戦略（素案）」に対する指摘事項 対応表

No	発言者	指摘箇所	指摘内容	町回答 (委員長/委員コメント)	対応：修正案
29	太田委員	町の現状と課題	P12「(3)住宅の価格」について、新松田駅周辺は土地の単価が高いはずであるため、地域別に分析していただかないと難しい表現である。	—	「国土交通省「土地総合情報システム 不動産取引価格情報」は、市町村別の不動産取引価格の情報のみであり、地域単位での算出ができないため、そのままの表記とします。 なお、一般財団法人 資産評価システム研究センターの「全国地価マップ」によると、「新松田駅」周辺の地価は、5万円台～7万円台が多く、最も高いところで105,700円/m ² (固定資産税路線価等(平成29年度))であるのに比べ、「開成駅」周辺の地価は9万円台が多く、最も高いところで121,800円/m ² となっており、駅周辺のみで比較しても開成町の方が地価は高い状況です。
30	太田委員	当戦略の位置づけ	P2「当戦略の位置づけ」の図に、「その他、女性を取り巻く様々な環境に関わる各種計画」とあるが、環境だけでなく、状況や本人の意思決定の部分にも寄るため、「環境」という表現は適切ではない。	—	P2 図1 松田町女性活躍総合戦略の位置づけ の修正 「その他、女性を取り巻く様々な環境や状況、制度等に関わる各種計画」へ修正します。 関連計画の例示を追加します。
31	太田委員	事業メニュー	松田町は子育て支援相談室が妊婦のレベルから活動している。 保育所と幼稚園でも何かあった場合には、保健士や臨床心理士のネットワークが積み上げられているため、それら母子保健の内容も追加いただきたい。 介護についても同様である。	—	女性の活躍を支える観点での母子保健の以下の内容を追加します。 2-①-18 訪問指導(妊産婦・新生児・乳児・低出生体重児・転入児) 2-①-19 健康教育事業の実施 2-①-20 育児相談の充実
32	佐宗委員	—	寄では、住んでいる方々がとても協力していて、言葉をかけあったり、他県から来た方に、ここはいいところだと素直に話している姿をみて、他地域にも、そのような姿がもっと見られたらと思っている。	—	重点目標4の「①地域の魅力を実感できる機会の創出」の取組により、町民が地域の魅力を理解することによって、町外の方へ自らPRするようになると考えます。今後の取組の参考といたします。
33	佐宗委員	事業メニュー	子どもが小・中・高校にあがると、町の行事から離れてしまうことが多いため、もう少し地域に密着した形で、関わりが持てる取組が必要ではないか。	—	4-①-11 プラン内容の追加 「(新規)町に愛着をもつ町民の育成」 ・本町が主催する地域のイベントや取り組みに、小中学生が参加しやすいよう工夫します。また、本町が共催、後援するイベントや取組の主催者に対して、小中学生の参加を促進するよう、協力を要請します。」を追加します。
34	佐宗委員	事業メニュー	町外就労者が帰宅時に立ち寄ることができる、地産地消の総菜屋などが駅前があれば嬉しい。 忙しい女性の生活スタイルの中で、一つでも町の食べ物や街並みに触れ合える場があれば、あたたかいまちが作れるのではないか。	—	3-②-1「新松田駅前等の基盤整備事業にともなう商店街の活性化について検討」の事業を通して、町の食べ物や街並みに触れ合える場の創出を図ります。

第2回協議会での「女性活躍総合戦略（素案）」に対する指摘事項 対応表

No	発言者	指摘箇所	指摘内容	町回答 (委員長/委員コメント)	対応：修正案
35	佐宗委員	事業メニュー	若い世帯に良い印象を与えられ、空き家のリノベーションや安価な住環境の情報があれば良い。 また、自然を活かした働き場などがあれば、子どもたちも東京の大学を卒業した後、町へ戻ってくる。 ここに就職したいという気持ちになれるきっかけを今後つくれたら良いのではないかと。	(委員長) 地元の方が、まちの中で魅力を発見していくことが大切である。 カフェや、松田町を好きであると実感できる場があれば良い。且つ、便利さは重要であるため、駅前などで実現できれば良いのではないかと。	3-③-5「(新規)子育て世帯向け地域優良賃貸住宅の整備」及び3-③-7「(新規)定住促進のための住宅情報提供及び補助」の事業を通して対応します。 1-③-4 プラン名、プラン内容の追加 「(新規)新規事業者の誘致 ・町の魅力向上につながる事業を進める事業者を町内へ積極的に誘致します。」を追加します。
36	石村委員	—	商店街や直売所など、ちょっとしたコミュニケーションがとれるような、松田町だからこそある温かさを実感できる場が増えたら良い。	—	3-②-1「新松田駅前等の基盤整備事業にともなう商店街の活性化について検討」の事業を通して、松田町だからこそその温かさを実感できる場の創出を目指します。
37	石村委員	—	松田にはきれいな山や川があるので、それを活用してアピールしたら良いと思う。	—	4-①-10「観光資源等の発掘・活用」及び4-②-4「テレビなどのメディアやインターネット等を活用した宣伝」を通じて、地域の魅力を保全・発信します。
38	石村委員	事業メニュー	4-①-7「地域に残る伝統芸能等を保存していくとともに、小学生、中学生等へ伝承し、次代を担う子どもたちの交流を促進します。」とあるが、幼稚園や保育園の子ども達まで対象年齢を下げると、親も参加する。 大人も一緒に楽しむことで、ロコミで広がったり、子どもの笑顔を見て親が喜んだり、良い方向へ働くのではないかと。	—	4-①-6 プラン内容の修正 「地域に伝わる無形の伝統芸能の保存・伝承の支援 ・ 伝統芸能の保存・伝承の支援 ・ 地域に残る伝統芸能等を保存していくとともに、小学生、中学生等へ伝承し、文化の継承・郷土愛などを育みます ・ 幼児の段階から伝統芸能に親しむ機会をつくとともに、その親への情報発信も進めます。」へ修正します。
39	石村委員	—	まちの魅力については、町内の方が知らないことが多い。公園についても、町内にあるものをよく知らないでいるため、町外に行ってしまう。実際に行き、遊び方が分かれば、現状のままでも今まで以上に楽しめるのではないかと。	—	4-①-2「松田の自然・文化を活かした事業の実施」の事業を通じて、地域の魅力を町民が実感できる機会を創出します。
40	根本委員	重点目標	町民が、自分たちの町を好きで、暮らしを楽しめたら、来訪者にもそれが伝わる。何かを発信することも大切だが、今住んでいる方に、どれだけ松田町が良いのか実感していただくことが大切かと思う。	—	重点目標4「住みたい・住み続けたい・戻ってきたいと思えるまち」の「①地域の魅力を実感できる機会の創出」の事業を通じて、町民が地域の魅力を実感できる機会を創出します。

第2回協議会での「女性活躍総合戦略（素案）」に対する指摘事項 対応表

No	発言者	指摘箇所	指摘内容	町回答 (委員長/委員コメント)	対応：修正案
41	小谷 副委員長	—	町民に、町の魅力を理解してもらうよう発信することが重要である。その上で、町外の方にPR発信するのが良い。PRする際には、具体的なターゲットを設定することが必要である。	—	重点目標4「住みたい・住み続けたい・戻ってきたいと思えるまち」の「①地域の魅力を実感できる機会の創出」の事業を通じて、町民に町の魅力を理解・実感していただく機会をつくります。 また、4-②-4「テレビなどのメディアやインターネット等を活用した宣伝」などの事業において、具体的なターゲットを設定の上、広報活動を行います。
42	小谷 副委員長	事業メニュー	PRする際には、町役場だけでなく、町に住んでいる方が発信することが重要である。住民からの発信ができるようなPR活動ができれば一番良いのではないかと。	—	4-②-8「(新規)「地域コンシェルジュ(仮称)」によるSNSを活用した地域の情報発信の推進」の事業を通じて対応します。
43	秋田谷 委員	—	幼稚園のニーズは現在、あまりないのではないかと。それより、保育園にした方が、女性が活躍する時間がもっと増えるのではないかと。保育園が足りないのではないかと。	(町) 幼稚園に関してはニーズが減ってはいるが、少しの負担で延長保育などを受けられる制度もあり、保育園の負担を減らしつつ、少しだけ働くという母親の要望に応えている。 国の流れとしては、認定こども園という大きな流れがある。幼稚園は、自己負担が低めであり、預かる時間が短い。そのニーズも確実にある。 ここで、町の方針を結論づけるのは難しい。 (佐宗委員) 生活水準は世帯によって異なり、公立でなければならない家庭もある。また、早いお迎えが必要であることは、子どものことを考えると環境としては良いと思う。 私立と公立の選択によって生活スタイルが異なる。家族がどう暮らしていきたいかです。いぶん変わっていくのではないかと。	貴重な意見として、今後の参考とさせていただきます。